

「赤木名小学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立赤木名小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計97人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月、10月 赤木名小学校体育館及び校庭

(2) 発表の日時・場所

令和5年10月1日 赤木名小学校校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

赤木名八月踊り（あかきなはちがつおどり）

(2) 由来

八月踊りは、奄美の各シマ（集落）に伝わる男女が唄をかけ合いながらの踊りである。歴史性については、はっきりとした記録はないが、唄の歌詞などから琉球服属時代ではないかと言われている。奄美のノロ（神様）の祭りが集団踊りへ発展した，悪霊払いの火の神祭り，豊年感謝・祈念の祭り，先祖を偲ぶ祭りなど，様々な祭りを由来として現在に伝わっている。

(3) 構成等

八月踊りは、基本的に「新節（アラセツィ）」（旧暦最初のヒノエの日），「芝挿し（シバサシ）」（新節から七日目のミズノエの日），「ダウンガン」（芝挿しの後のキノエネの日）の3回に分けて踊られていたが，現在では，ほとんどの集落が一回で終わっている。踊りの構成として男女別に列を作り「ほこらしゃ」を踊りながら，門から家に入り，男女分かれて一つの輪を作る。その後，座り唄（イリウタ）を唄いながら踊りが始まり，赤木名地区では，最後に「浜千鳥（ハマチジュラ）」を踊るようになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

赤木名八月踊り保存会の方々が，赤木名っ子タイムの中で，子供たちへ伝承活動を行っている。1年生から6年生まで，学年に応じて指導してもらい，低・中学年は唄を覚え，チヂンのリズムに合わせて踊る，高学年は，唄の歌詞の意味や細かい動きの踊り方まで習い，数名の子供たちは，三線やチヂンの演奏を夏休み前から習い運動会本番では，立派な演奏ができるようになっている。昨年度までは，新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により，全校児童と赤木名八月踊り保存会の数名により規模縮小で行っていたが，今年度は，6年ぶりに赤木名校区と附属幼稚園と合同で開催されたため，児童，職員，保護者，地域の方々に参加していただき，約300名とこれまでにない豪華で壮大な八月踊りとなった。演目は，「ほこらしゃ」での入場，「赤木名観音堂」，「さんだまけまけ」，「浜千鳥（ハマチジュラ）」であった。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

貴重な文化財である赤木名八月踊りを継承していくためには、次世代、即ち赤木名小の子供たちに伝えていくことが大切であると考えます。

一つは、ふるさと教育を学校経営の柱と位置付けて取り組んでいる。そのために、総合的な学習の時間や運動会などの他にも、普段から八月踊り唄に触れてもらうために、朝のボランティアや清掃時間には、校内放送で、保存会の方々が歌う八月踊り唄を流している。この放送は、校庭にも流しているため、地域（校区）の方からも「口ずさみたくなりますね。」など好評である。この他にも八月踊りや集落の行事などの掲示物を充実させ、ふるさとの文化を意識できるようにしている。

もう一つは、保存会や地域の方々との連携である。日頃から職員が率先して地域行事に参加したり、八月踊り保存会に入会し練習したりし、学校の願いを伝え、保存会や地域の方の思いを汲むようにし、連携を密にしながら、伝承活動に取り組んでいる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

運動会に向けて八月踊りの練習①



運動会に向けて八月踊りの練習②



大運動会での三線・チデンの様子



校区と合同の大運動会の八月踊り



8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【5年児童】

6年生のお姉ちゃんたちが、チデンを叩く様子を見て、来年はやりたいたいと思っていたのでみんなの前で叩けてうれしかった。

【保存会から】

学校が毎年、積極的に取り組んでくれているので助かる。これからもずっとこの取り組みを続けて欲しいと思う。

結構覚えてきている。自分たちで打ち出しまでできるようになれば最高だ。

【地域の方から】

運動会での八月踊りは、これまでで一番多くの人たちが参加していたので、とてもうれしかった。奄美の宝としていつまでも残してほしい。